

子育て家庭と区長のタウンミーティング（子育てカフェ）で寄せられた主な意見

テーマ：子どもの居場所づくり

（２０２６年７月１７日開催分）

意見要旨
児童館にあるおもちゃは古いタイプのものが多い。木製おもちゃなど安全なおもちゃを多く置いてほしい。
一時預かりについて年齢にかかわらず子どもを預けられる環境を整備してほしい。また、予約が取りにくい状況を改善し、気軽に利用できるよう、一時預かりを実施する施設や受入枠を拡充してほしい。
障害のある子どもたちにとって、習い事などの居場所となる施設への移動が難しいため、移動支援の充実を図ってほしい。また、将来的に一人でも移動できる力を育むための教育的支援を整備してほしい。
不登校の子どもたちのための居場所がほしい。学校内で不登校の子どもたちのための居場所を設けている事例もあることから、すべての子どもが利用できる環境を整備してほしい。また、学力の遅れのある子どもや友達と上手に関われない子どものためにも、特別な居場所がほしい。
障害のある子どもが安心して過ごせる居場所を充実してほしい。キッズ・プラザのように、子ども同士のトラブルや困りごとに適切に対応できる大人が見守る環境を整備し、安心して利用できる居場所づくりを進めてほしい。
未就学児向けの遊び場は増えているものの、障害のある子どもと一緒に利用する際には保護者の付き添いや見守りの等負担が大きい。障害のある子ども同士が安心して遊び、交流できる居場所を充実してほしい。
児童発達支援や放課後等デイサービスにおいて、施設での子どもの様子を保護者と十分に共有してほしい。
障害のある子どもやその保護者が気軽に相談できる場を充実するとともに、児童館等で日頃から発達相談に対応できる職員を配置してほしい。
中高生の居場所づくりをすすめてほしい。

世田谷文学館の「やなせたかし展」にある絵本コーナーのように、子どもが大人と一緒に利用できる居場所をつくってほしい。

障害のある人への理解を子どもの頃から深める取組や、特別支援学級の副籍制度の充実を通じて、障害のある子どもが地域の中で交流しながら安心して成長できる環境を整えてほしい。

子ども110番のように、障害のある子どもやその家族が安心して利用できる店舗等を認定し、認証シールの掲示や受入れ研修を通じて、地域全体で見守る仕組みを整備してほしい。

子ども食堂との連携により子どもが商店街などで気軽に過ごせる居場所づくりを進めてほしい。

子どもの居場所について、より積極的に周知するとともに、中野区や近隣地域の子どもの遊び場・居場所に関する情報を充実させ、分かりやすく発信してほしい。

障害のある子どもが地域の中で社会体験を積める機会を充実させてほしい。

平和の森小学校跡施設などを活用し、りばぁさいど原宿のような交流・支援拠点の整備や、インクルーシブなカフェの設置を進めてほしい。

屋内の遊び場を増やしてほしい。

栄町公園をはじめとする公園において、幼児と小学生がそれぞれ安全に遊べるよう、利用ゾーンを分けるなどの環境整備を進めてほしい。

公園の遊具を充実させるとともに、広い公園では日差しを避けられる日陰の場所を増やしてほしい。

子ども用品が購入できる店舗がほしい。

子どもの居場所と習い事を一体的に充実させ、無料で参加できる習い事や体験活動を増やしてほしい。

大学と連携し、学生が療育の現場に参画することで、子どもや保護者を支える体制の充実を図ってほしい。